CURRICULUM GUIDE 2017

宮城大学
看護学群
履修ガイド 2017

平成 29 年度

この履修ガイドは卒業まで使用するものです

はじめに

　この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での４年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

　大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

　また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見すえ、納得のいく学修計画を立ててください。

　「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに出会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

宮城大学の建学の理念

　ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れ、高度な専門性と実践的能力を身につけた、地域の発展をリードし、世界に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与することを建学の理念に掲げています。

宮城大学の目的

　地域社会及び他の大学、研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想及び食産業に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的としています。

宮城大学各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	食資源開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

目次

Ⅰ 宮城大学カリキュラムの全体像 07
1 宮城大学の教育目標 07
2 宮城大学の教育基本方針 07
3 学群・学類について 07

Ⅱ 総論 09
1 入学から卒業までの基本的な流れ 09
2 学群とキャンパスについて 09
3 学年及び休業日と、学期、時間割について 09
(1)学年、学期及び休業日 09
(2)時間割 09
4 学籍と在学期間について 10
(1)学籍の異動(学生便覧から) 10
(2)修業年限及び休学期間の限度、在学年限 10
5 単位について 11
(1)単位の計算基準 11
(2)卒業要件単位数 11
(3)単位認定について(他学群・他学類履修科目等) 11
6 履修登録について 12
7 授業について 12
(1)授業科目 12
(2)シラバス(授業計画書) 12
(3)授業への欠席及び遅刻 12
(4)休講 12
(5)補講 12
8 成績の評価方法について 13
(1)試験 13
(2)レポート・制作物等の提出方法 13
(3)追試験 13
(4)再試験 13
(5)成績発表について 14
(6)GPA制度 14
(7)学生による授業評価について 14
9 進級について 15
10 学類の決定・履修コースの選択について 15
(1)学類の決定 15
(2)履修コースの選択 15
11 転学群・転学類について 15
(1)転学群・転学類について 15
(2)コース変更について 15
12 卒業認定・学位授与について 16
13 学修支援について 16
(1)教員へ相談したいとき 16
(2)職員へ相談したいとき 16
(3)学生相談室、保健室について 16
14 その他 17
(1)大学からの連絡 17
(2)気象状況や自然災害等による休講・試験の延期 17
(3)学生保険について 17
(4)経済支援について 17

Ⅲ 履修登録 19
1 履修登録の重要性 19
2 履修登録の手順 19
(1)「履修登録の手引き」確認 19
(2)時間割表の確認 19
(3)シラバスの確認 19
(4)履修登録期間 19
(5)履修登録修正 19
(6)学生時間割提出期間 19
(7)履修登録取消期間 20
(8)履修登録科目の確定 20
3 履修登録上の留意点 20
(1)履修可能な科目 20
(2)必修科目の履修 20
(3)単位修得済み科目の履修登録の禁止 20
(4)履修クラス等の指定 20
(5)集中講義科目 20
4 その他 20

Ⅳ 基盤教育 21
基盤教育の教育目標 22
1 フレッシュマンコア 23
(1)フレッシュマンコアとは 23
(2)フレッシュマンコアの基幹科目 23
2 学びの基盤となる４つの分野 24
(1)グローバルコミュニケーション分野 24
(2)ソーシャルサイエンス分野 24
(3)ナチュラルサイエンス分野 24
(4)アートサイエンス分野 24
3 留学生対象科目 25
4 教育課程の一覧 25

Ⅴ 全学共通科目 ほか 27
1 コミュニティ・プランナープログラムについて 27
(1)コミュニティ・プランナープログラムとは 27
(2)単位 27
(3)プログラムの考え方および特色 28
(4)履修方法および履修手続等 28
2 学外研修・グローバルインターンシップ 30
(1)学外研修・グローバルインターンシップとは 30
(2)科目の履修方法 30
3 学都仙台単位互換ネットワーク単位互換制度 30
(1)学都仙台単位互換ネットワーク単位互換制度とは 30
(2)単位互換制度の申請方法 31

Ⅵ 看護学群 33
1 看護学群看護学類について 33
(1)カリキュラムの特徴 33
(2)看護学群の教育目標 34
(3)看護学群のカリキュラムマップ 35
(4)看護学群の４年間の学びの流れ 36
2 看護学群の科目配当表 38
(1)看護師教育課程科目配当表 38
(2)保健師教育課程科目配当表 40
(3)養護教諭教育課程科目配当表 42
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件 44
4 教育課程の特色 44
(1)基盤教育科目 44
(2)専門教育科目 44
5 看護師教育課程 45
6 保健師教育課程 46
(1)保健師国家試験受験資格について 46
(2)選択科目の履修・単位修得について 46
(3)「公衆衛生看護学実習」について 46
7 養護教諭教育課程 47
(1)養護教諭一種免許状の取得について 47
(2)選択科目の履修・単位修得について 47
(3)養護実習・教職実践演習について 47
8 履修での留意事項等 48

Ⅰ. 宮城大学カリキュラムの全体像

1 宮城大学の教育目標

宮城大学の建学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 宮城大学の教育基本方針（ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー）

（1）ディプロマポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

（2）カリキュラムポリシーとは

「ディプロマポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラムポリシー」といいます。

※基盤教育・各学群・学類のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 学群・学類について

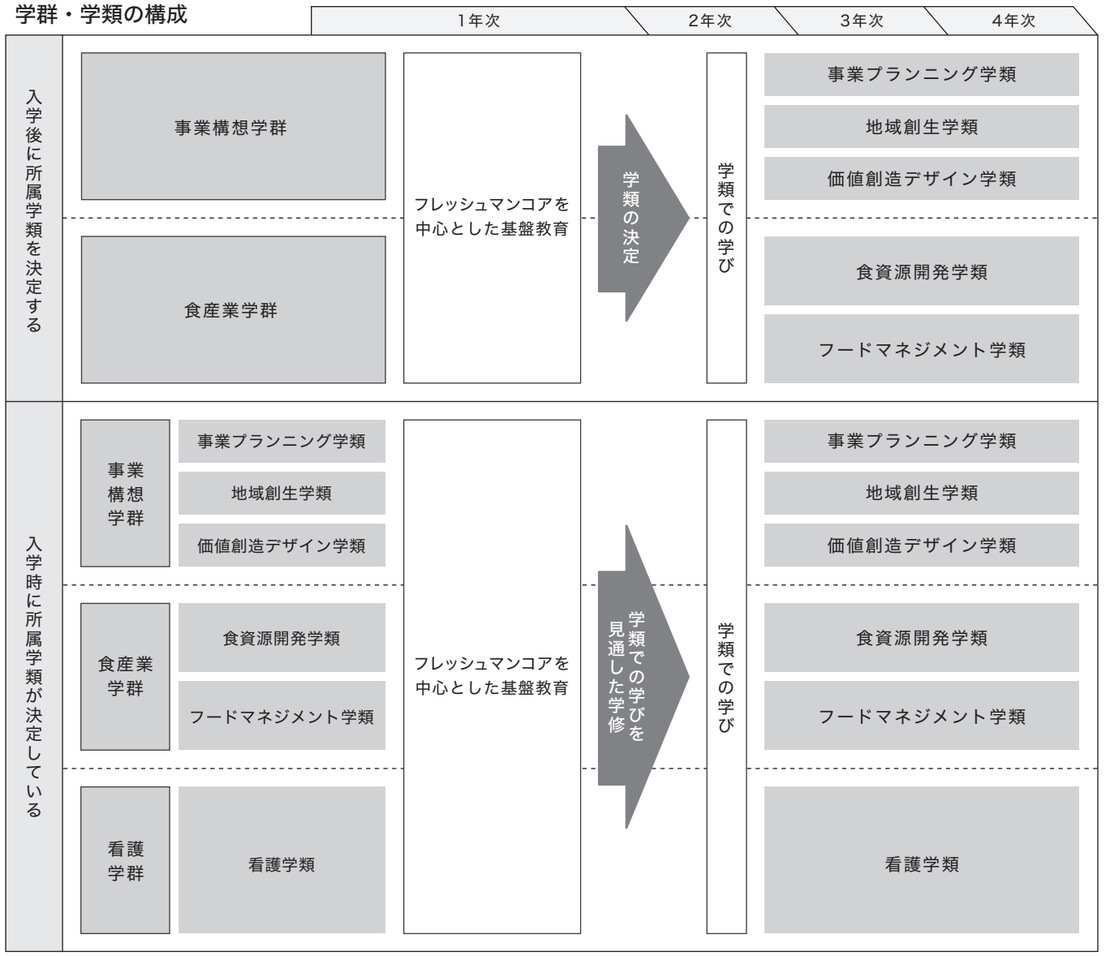
宮城大学は、学群・学類（3 学群・6 学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類
	地域創生学類
	価値創造デザイン学類
食産業学群	食資源開発学類
	フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2 年次からの学びを見通し、1 年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群及び食産業学群（一部入学生を除く）では、2 年次に所属する学類が決定されます（AO 入試での入学生を除く）。入学後 1 年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



II . 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

2 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群および各研究科を設置しています。それぞれの学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑１番地１	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
電話	022-377-8200	022-245-2211

3 学年及び休業日と、学期、時間割について（学則第６条、７条、８条）

(1) 学年、学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	４月１日に始まり、翌年３月31日に終わります。
前期	４月１日から９月30日まで
後期	10月１日から３月31日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日５月１日
春季休業日	４月１日～４月７日
夏季休業日	８月１日～９月30日
冬季休業日	12月25日～１月７日

※春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」 を確認してください。定期試験は、前期・後期末に期間を定めて実施します。

(2) 時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時刻	8：50 ～ 10：20	10：30 ～ 12：00	12：50 ～ 14：20	14：30 ～ 16：00	16：10 ～ 17：40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。
②隔週開講：１週おきに開講するものです。
③指定日開講：特定の日時に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について（学則第 18 条、19 条、21 条、23 条、24 条、26 条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

（1）学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、学内ウェブサイトを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

（2）修業年限及び休学期間の限度、在学年限

本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

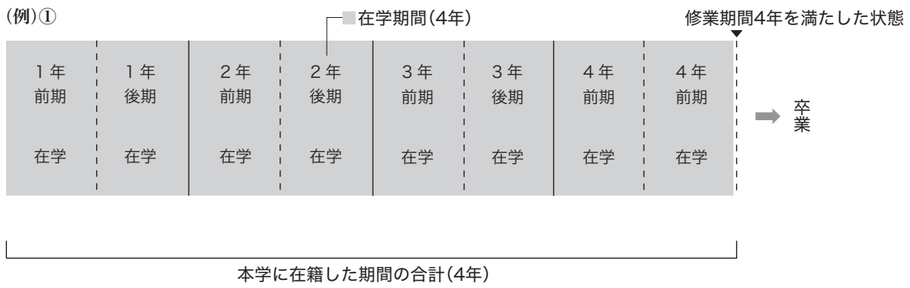
- 修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- 修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- 在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- 在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- 休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

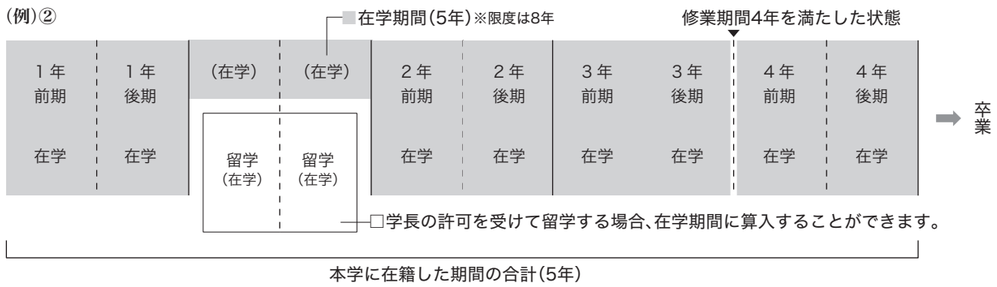
※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。

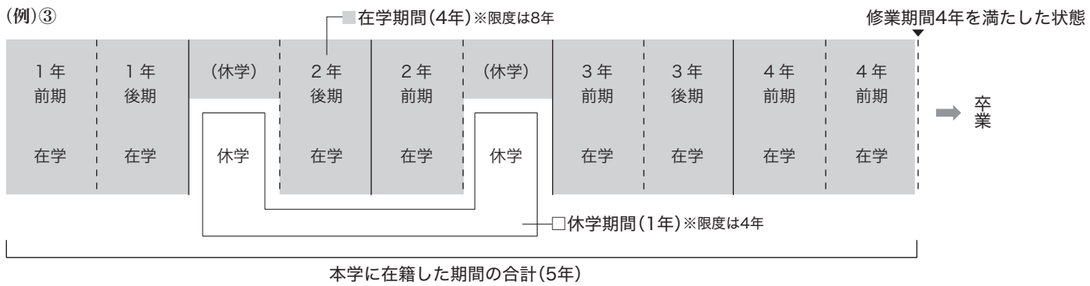
（例）①



（例）②



（例）③



5 単位について（学則第 35 条、36 条、37 条、38 条、39 条、40 条、41 条）

単位とは、授業科目を修得したことを示す時間数です。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

（1）単位の計算基準

授業科目「1 単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて 45 時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 2 単位
演習	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 1 単位 (2 時限構成の場合 2 単位)
実験・実習・実技	2 時限（180 分）又は 3 時限（270 分）の授業 15 回で 1 単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2 時限分の授業 15 回と事前・事後学習で 2 単位とします。

（2）卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	126単位	125単位	127単位

（3）単位認定について（他学群・他学類履修科目等）

他学群・他学類、他の大学又は短期大学における授業科目の履修や、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定について下表のとおり定めています。これらの単位認定については、申請を行う必要がありますので、事務部窓口にて案内を受けてください。

項目	要件	単位認定できる単位数
①他学群･他学類の授業科目の履修	学長の承認	60単位を超えない範囲とする。
②他の大学又は短期大学における授業科目の履修	学長が教育上有益と認めるときは、単位互換協定等に基づき、本学における授業科目に履修により修得したものとみなすことができる。	①と合わせて、60 単位を超えないもの
③大学以外の教育施設（学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科）における学修、その他大学設置基準第 29 条 1 項の規定により文部科学大臣が別に定める学修	学長が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を修得することができる。	①、②とあわせて、60 単位を超えないもの
④入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（既修得単位）	学長が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を修得することができる。	編入学又は転入学の場合を除き、①、②、③とあわせて 60 単位を超えないもの。

上記単位認定された科目のうち、卒業要件単位数への算入については、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、履修方法とあわせて学内ウェブサイトで確認してください。



6 履修登録について（履修規程第３条、第４条、第５条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。詳細は次章に記載しています。本学では、履修登録可能な単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限
1年次	年間49単位まで（基盤教育科目から35単位まで）
2～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで

※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。
・各学群の卒業要件に含まない科目
・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目
・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合

7 授業について

（1）授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらそれぞれの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
自由選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

（2）シラバス（授業計画書）

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス（syllabus）」といいます。
・シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
・学内ウェブサイトの「学務管理システム」で参照することができます。
・シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。

（3）授業への欠席及び遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。
・一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
・欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。

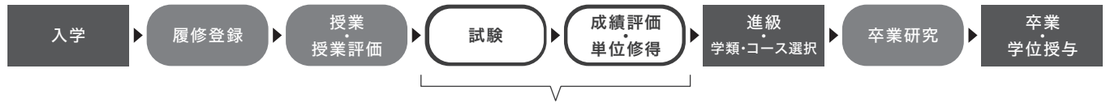
（4）休講

担当教員の都合や気象条件等により授業が休止になることを休講といいます。休講は、下表の方法で連絡します。

大和キャンパス	事務部前掲示板等に掲載、学務管理システムに掲載
太白キャンパス	講義棟１階の掲示板等に掲載、学務管理システムに掲載

（5）補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。



8 成績の評価方法について（履修規程第７条、第８条、第９条、第10条、第11条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学習到達度によって下表のように評価されます。秀、優、良及び可を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

（1）試験

試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

試験の日程は、試験期間開始前に、大和キャンパスにおいては事務部前掲示板で、太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示板でお知らせします。

（2）レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	［大和キャンパスレポートボックス］ ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	［太白キャンパスレポートボックス］ ※管理棟1階事務部窓口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	①所属学群・学類・コース、②学籍番号、③氏名、④授業科目名、⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

（3）追試験

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の申請は、試験終了後 1 週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、学内ウェブサイトを参照してください。

（4）再試験

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

(5) 成績発表について

成績発表は、前期は９月末、後期は３月末に学内ウェブサイトの「学務管理システム」を通じて行います。履修した科目については、「学務管理システム」の「成績情報」で確認ができます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む 10 日間のみ、成績質問を受け付けます。
成績質問は、学内ウェブサイトから所定の様式を取得し、提出してください。

(6) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA（Grade Point Average）とは、各授業科目の 5 段階の成績評価に対応して４～０のグレードポイントを付与して算出する１単位あたりのグレードポイント平均値です。

GPは下表の数値としています。

成績	秀	優	良	可	不可
GP	4	3	2	1	0

・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の 3 種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第３位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

$$学期GPA = \frac{（その学期に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数）の合計}{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}$$

②年度GPAの計算式

$$年度GPA = \frac{（その年度に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数）の合計}{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}$$

③通算GPAの計算式

$$通算GPA = \frac{（〈各学期に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数〉の合計）の総和}{（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和}$$

・GPA は、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。
ア）編入学または転入学した際の単位認定科目
イ）本学入学前に修得した単位認定科目
ウ）他大学等との単位互換等で修得した科目

・履修した科目を履修放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPA に算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取り消し期間中に所定の手続きを行ってください。

(7) 学生による授業評価について

本学では，授業をより充実したものに改善することを目的に、学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内ウェブサイト等で案内されますので、履修した科目について回答してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

9 進級について（履修規程第 12 条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算 6 単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次）	
2 年次進級要件	卒業要件単位数のうち 30 単位以上を修得していること。	
3 年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1･2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。3年次に開講されている実習（母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅の7つの領域）の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群は、加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について（履修規程第 13 条、第 14 条）

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、１年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類の所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群と食産業学群では、学類毎に専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
看護学群	看護学類	―	―
事業構想学群	事業プランニング学類	事業戦略コース 事業管理コース	2年次の7月末日
	地域創生学類	地域政策コース 地域科学コース	
	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	
食産業学群	食資源開発学類	動物生産科学コース 植物生産科学コース	2年次の1月末日
	フードマネジメント学類	フードビジネスコース フードサイエンスコース	

11 転学群・転学類について

(1) 転学群・転学類について（学則第 22 条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、学内ウェブサイトにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について（履修規程第 14 条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。



12 卒業認定・学位授与について（学則 41 条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	食資源開発学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、所属するクラスを担当する教職員が窓口となって相談を受け付けます。

また、学生がクラス担当教員以外の教員の研究室を訪れ、授業内容等について気軽に相談できる時間として「オフィスアワー」を設けています。詳細については学内ウェブサイトの「学生便覧」を参照してください。

なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員へ相談したいとき

オフィスアワーの対応時間等については学内ウェブサイトに掲載されています。ただし、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談することを推奨しています。

（2）職員へ相談したいとき

事務部の窓口が利用できる時間帯は、平日８：３０～１７：５０です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務部窓口が利用できる時間帯で行ってください。

（3）学生相談室、保健室について

・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
・利用時間はキャンパス毎に異なりますので、学内ウェブサイトの「学生便覧」で確認してください。

14 その他

（1）大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。

また、学内メールの他、大和キャンパスにおいては事務部前の掲示板、太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示版、学務管理システム（https://portal.myu.ac.jp/portal/login）等を通じて連絡を行うことがあります。登下校時には、掲示板等を確認してください。

（2）気象状況や自然災害等による休講・試験の延期

気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため休講及び試験の延期措置を行います。

時間帯	気象状況	休校
午前7時の時点	仙台市又は大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、スチューデントサービスセンター長及び副センター長により休講及び試験の延期措置が必要と判断した場合。（JR在来線〈東北本線・常磐線・仙山線・仙石線〉の仙台駅を含む区間の運休又は運転見合わせや仙台市内小中高校の休校を目安として判断します。）	午前の授業（1・2限）『休講』
午前10時の時点		午後の授業（3～5限）『休講』
※実習、インターンシップ等学外で実施される科目の実施有無については、当該基準に準じ各担当教員（看護学実習の場合は学部長又は実習ワーキンググループ長）の判断によります。		

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、学内掲示やメールなどによって周知されます。

（3）学生保険について

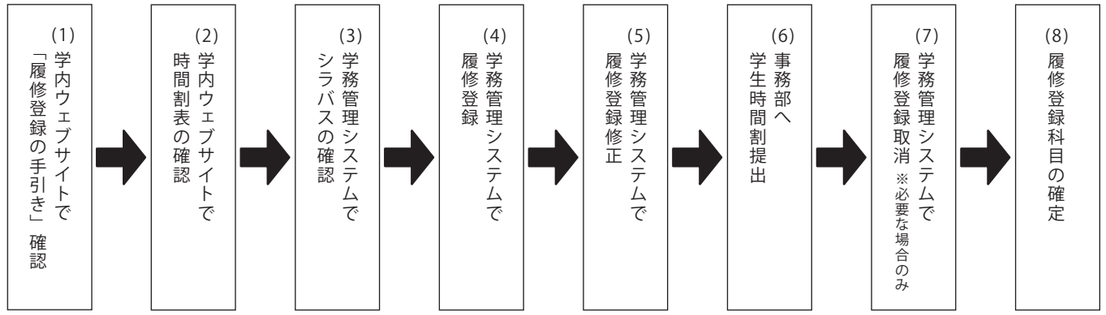
学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので、参照してください。

（4）経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので参照してください。

Ⅲ. 履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目について履修（授業を受ける）の意思表示をすることであり、学修のスタート地点になります。履修登録の流れは以下のとおりです。



1 履修登録の重要性

授業を受け、単位認定を修得するには履修登録が必要です。履修登録しなければ試験を受けられません。将来をしっかり見据え、履修計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

2 履修登録の手順

本学では、学内ウェブサイトの学務管理システムを利用して各自が履修登録を行います。学務管理システムの入力方法、操作方法等については、別冊「学務管理システム学生向け操作手順書」を参照してください。

なお、他学群・他学類科目など一部の科目については学務管理システムを使用せず、所定の用紙で登録を行います。用紙による登録が必要な科目は別途掲示等で周知します。

(1)「履修登録の手引き」確認

学内ウェブサイトに「履修登録の手引き」が掲載されます。履修登録について詳しい日時や登録手続き方法など重要な情報が記載されていますので、必ず確認してください。

(2) 時間割表の確認

学内ウェブサイトに時間割表が掲載されますので確認してください。

(3) シラバスの確認

学務管理システムからシラバスを確認することができます。シラバスには当該科目についての情報とともに他の科目との関連も記載されていますので、よく確認して履修計画を立ててください。

(4) 履修登録期間

定められた期間に必ず学務管理システムから履修登録（用紙による登録を除く）してください。学務管理システムによる履修登録の結果は、直ちに学務管理システムの「時間割」で確認できます。

後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録してください。

(5) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合は、定められた期間までに学務管理システムから修正してください。後期科目については、後期授業開始後に履修登録修正期間を設けます。

履修登録修正期間の開始前日に未登録者（学務管理システムからの履修登録科目がない者）を掲示します。（この日は科目の新規登録及び修正はできません。）修正した結果は、直ちに学務管理システムの「時間割」で確認できますので、確認の上、必ず印刷しておいてください。

※この期間で履修登録科目追加や変更は締め切られますので十分注意してください。

（6）学生時間割提出期間

履修登録修正期間までに印刷した「時間割」を、看護学群・事業構想学群の学生については大和キャンパスの事務部窓口専用BOXに、食産業学群については太白キャンパスの事務部窓口専用BOXへ提出してください。

（7）履修登録取消期間

定められた期間は履修登録の取消のみ行えます。取消を行わなかった科目は、すべて評価の対象となり、その後は自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。

（8）履修登録科目の確定

履修登録取消期間の終了後、用紙による履修登録を含めた最終的な履修登録内容（時間割）が学務管理システムで確認できますので、各自履修登録内容を確認してください。

履修登録内容が、各自窓口に提出した「時間割」と異なっている場合や用紙による登録内容が反映されていない場合は、「履修登録の手引き」で定めた期日までに事務部に連絡してください。

3 履修登録上の留意点

履修登録期間中には、キャンパス毎に事務部から様々な連絡事項が伝えられますので、各自所属するキャンパスの所定の掲示板等をこまめにチェックしてください。履修登録および変更・取り消しは定められた期間内に行う必要があります。また、履修登録は、所属学群、学類、コースのカリキュラムに沿って行うほか、以下の点にも留意してください。

（1）履修可能な科目

履修登録ができる科目は、履修規程において、自分の在学する学年及びそれ以下の学年に開講されている科目です。

（2）必修科目の履修

必修科目は、進級・卒業の要件になっていますので履修登録漏れのないよう十分注意してください。

（3）単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度履修して単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

（4）履修クラス等の指定

時間割において、クラスの別や、学類・コースの指定がある科目については、指定された時限に履修登録してください。

（5）集中講義科目

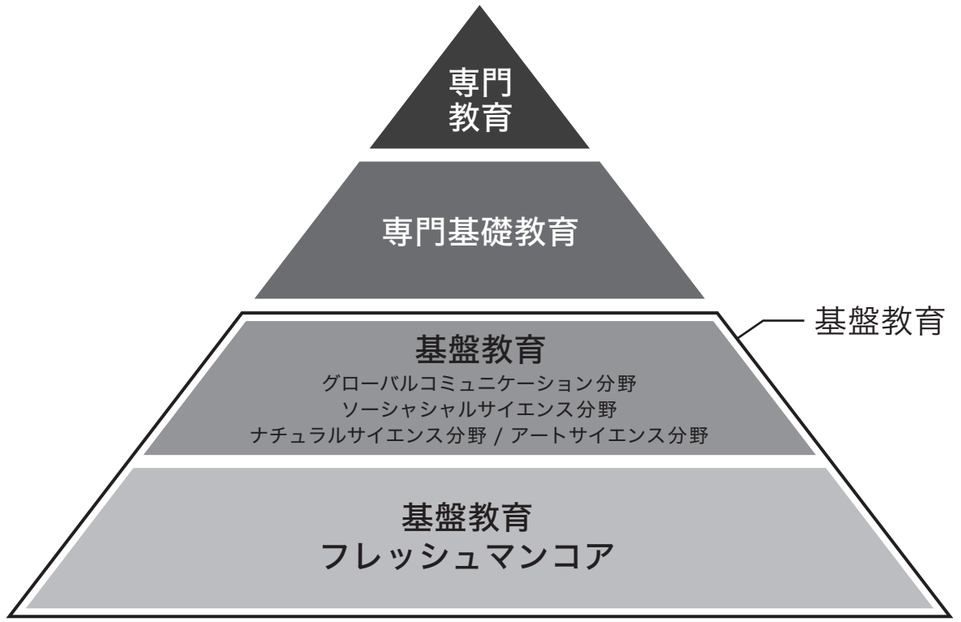
集中講義科目を２科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

4 その他

履修登録に当たって不明な点は、各キャンパスの事務部へ問い合わせてください。

Ⅳ. 基盤教育

みなさんは大学生として、４年間をどう過ごしたいでしょうか。４年後、どんなことができるようになっていたいでしょうか。これまでのみなさんの学びの方法は、漢字や言葉の知恵、歴史や文化の知識、英語や数式・化学式、情報活用のスキルなど、教えられて覚えて身に付けることが多かったと思います。大学生としての学びは、教えられたことを覚えるだけでは足りません。大学での学びとは、教えられ吸収したことに対して、みずから考え、課題を見出し、深層まで分析し、解決方法を探りだしていくことです。それには、自ら調査し、考えを深めることのほか、他者と意見を交わし、異なる意見や文化の中に新しい答えを見つけ出したりすることも、必要となってきます。学問に触れ、地域に入り、他者とかかわるなかで、身近な地域に、多様な社会に、広い世界にいる「自分」という個性を知り、その立ち位置を見つけることで、自分の将来に見通しを持つことができると、宮城大学は考えています。



上の図に示すように、基盤教育には、フレッシュマンコア科目群と、グローバルコミュニケーション分野、ソーシャルサイエンス分野、ナチュラルサイエンス分野、アートサイエンス分野の４つの領域があります。基盤教育では、みなさんが学び続けるための 3 つの力を養います。１つ目は、基礎的な言語、数量、情報を扱いこなす方法を身につける力（技法知）。2 つ目は、学んだ知識をどのようにとらえて、どのように考えるかを鍛える力（学問知）。そして３つ目に、自己と他者を知り協働しながら物事を動かす力（実践知）。この３つの力が、「明日の姿を見通す力」につながっていくのです。

宮城大学は、複雑な現代社会をしなやかに、たくましく生きていく手立てとして、人間力を高め、広く深く学び続ける力を身に付けるために、基盤教育を重視します。

基盤教育の教育方針

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
		宮城大学共通の教育基盤として、人間力を高めるとともに、広く深く学び続ける力を養成し、将来にわたって明日の姿を見通す力を身につけるための技法知・学問知・実践知を修得するための教育課程を編成する。その中核として、全ての学生が必ず身につけるべき力を養成するための科目群「フレッシュマンコア」を置く。
1 知識・技術	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における幅広い分野の知識と技術を教授するため、学問領域を社会・歴史・文化を学ぶ「ソーシャルサイエンス」、人間と自然科学を学ぶ「ナチュラルサイエンス」、芸術を学ぶ「アートサイエンス」に分類し、それぞれの領域における基本的知識・技術を教授するための科目群を構成する。また学びの全体を俯瞰するための科目を置く（看護学群を除く）。 学生が修得した知識・技術を、実践的に応用できる力に結びつける効果的な教育方法を採用する。
2 思考力 判断力	物事を多面的に考えながら、科学的根拠に基づく論理的な思考と判断ができる。	自らが修得した知識・技術を基盤に、科学的根拠に基づく論理的な思考力・判断力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中に少人数演習演習およびフィールドワーク等を置き、実践的な課題に取り組む教育を行う。
3 表現	自分の意見を口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。	自らの意見や調査分析結果を文章や口頭で表現し、それらを伝えるコミュニケーション力を養成するため、少人数演習科目において、表現技術とコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。 グローバルなコミュニケーション力と表現力を養成するために、「グローバルコミュニケーション」科目群を設け、世界共通語としての英語をフレッシュマンコアとして位置づけるとともに、その発展科目を置く。また、中国語、韓国語、ベトナム語の外国語科目として置く。
4 主体性	自己を社会の中に位置づけ、学びを自分自身で意味づけながら自ら学び続けることができる。	自らの将来を見据え、主体的に学ぶ能力を養成するために、「フレッシュマンコア」の中に、大学での主体的な学びを理解するための科目、自らの将来像を考えるためのキャリアデザイン科目を設ける。また、演習科目においても学びの主体性を重視した教育を実施し、自らが学びつつけるための力を養成する。
5 協働性	他者との適切なコミュニケーションのあり方を理解し、他者と協力して学ぶ活動ができる。	他者との協働性とコミュニケーション力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中で少人数演習やフィールドワーク等の協働的な活動を取り入れた教育を実施する。

1 フレッシュマンコア

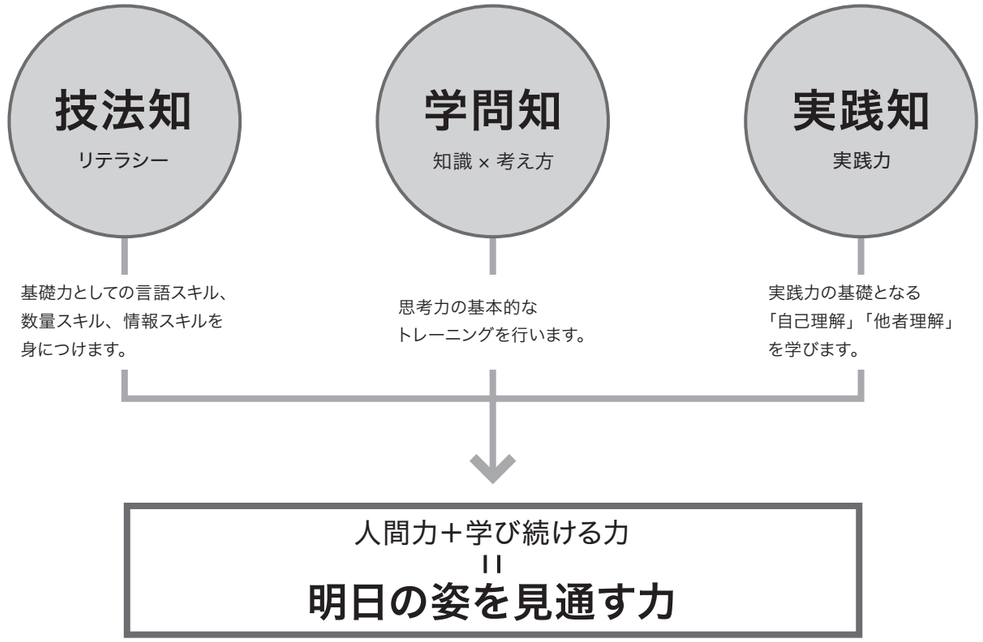
（1）フレッシュマンコア（FC）とは

宮城大学が重視する基盤教育、その軸となる全学共通の必修科目群を「フレッシュマンコア」といいます。

フレッシュマンコアでは、技法知、学問知、実践知を高めるための基本トレーニングを積むことで、専門科目を主体的に学ぶための準備を行います。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学ぶ中で、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養います。さらに、地域社会・人間社会の一員として自分をどう位置付けるのかを考え、一人ひとりの生涯の学びの基盤を作ります。

〈 フレッシュマンコア 〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



（2）フレッシュマンコアの基幹科目

フレッシュマンコア群の中でも、以下の７科目（看護学群は４科目）をフレッシュマンコア基幹科目と位置づけ、宮城大学生として必要な力を身に付けます。

①スタートアップ・セミナー ……▶ 自らの考えを表現する

２５人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学びます。

②アカデミック・セミナー ……▶ 表現に磨きをかける

スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、深い思考力と論理的に説明する方法を学びます。他者と協働してアイディアを出し合いながら、自身の表現に磨きをかける能力を養います。

③社会の中で生きる ……▶ 善き公民としての資質を磨く

社会がどのように構成されるのか、幸福・正義・公正の観点から、自分がどのように社会とかかわり、その一員として責任を担っていくべきかをグループで考えていきます。

④地域フィールドワーク ……▶ 地域を歩き、自らのミッションを問う

地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「すべきこと」を考えていきます。

⑤宮城大学の知の体系（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 宮城大学の学びを俯瞰する
大学での学びを概観し，宮城大学と3学群のミッション，学修内容等を理解することで，４年間の学修と卒業後の姿をイメージします。

⑥大学での学び入門（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 学び続ける姿勢を養う
大学での学び方を身につけることを目的に，学ぶことの意義を考え，また学ぶために必要な学修方法について学びます。

⑦キャリアデザインⅠ（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 自分は何者かを問う
学類選択や卒業後の進路を見据えて、「自分は何者で、これからどのような道を進んでいきたいのか」を考えます。過去の自分に肯定的な意味付けをし、未来の自分をデザインする方法を学びます。

フレッシュマンコアでは上記基幹科目のほかにも、必修科目として次の科目を配置しています。

・English Reading SkillsⅠ／English Reading SkillsⅡ／English for Academic PurposesⅠ
・English Self-ExpressionⅠ／English Self-ExpressionⅡ／English Self-ExpressionⅢ
・データサイエンス入門
・情報化社会と技術

2 学びの基盤となる４つの分野

基盤教育の中では、フレッシュマンコアで生涯にわたって学び続ける力を修得するとともに、学類毎の専門科目を理解するための基礎知識や基本的な考え方について、以下の４つの科目分野を基盤として学んでいきます。

（1）グローバルコミュニケーション分野（GC）

English for Academic PurposesⅡ	Extensive Listening	Practical English
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	
韓国語Ⅰ	韓国語Ⅱ	
ベトナム語Ⅰ	ベトナム語Ⅱ	
Global StudiesⅠ	Global StudiesⅡ	Intercultural Communication

（2）ソーシャルサイエンス分野（SS）

日本の歴史と文化	世界の歴史と文化	東北の歴史と文化
現代社会と哲学	人と宗教	心理学
現代社会の諸相	憲法	社会と経済

（3）ナチュラルサイエンス分野（NS）

数理科学	生命科学	環境科学入門
地球と宇宙	数学概論	物理概論
化学概論	生物概論	基礎統計学

（4）アートサイエンス分野（AS）

音楽	美術	健康科学
スポーツ科学	スポーツ実技	体を動かす楽しみ
アートサイエンス概論（※）	総合芸術（※）	

※看護学群では開講しない科目なので、看護学群の学生が履修を希望する場合は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

3 留学生対象科目

留学生の皆さんには、下表の基盤教育科目が必修となります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
宮城大学の知の体系	開講なし	○	○
大学での学び入門	開講なし	○	○
社会の中で生きる	○	○	○
キャリアデザインⅠ	開講なし	○	○
スタートアップ・セミナー	○	○	○
アカデミック・セミナー	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
データサイエンス入門	○	○	○
＊ English Reading SkillsⅠ	6科目から2単位（2科目）以上選択	6科目から2単位（2科目）以上選択	6科目から2単位（2科目）以上選択
＊ English Self-ExpressionⅠ			
＊ English Reading SkillsⅡ			
＊ English Self-ExpressionⅡ			
＊ English for Academic PurposesⅠ			
＊ English Self-ExpressionⅢ			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	選択	選択	○
基礎統計学	選択	○	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、VI学群の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

Ⅴ. 全学共通科目ほか

1 コミュニティ・プランナープログラムについて

(1) コミュニティ・プランナープログラムとは

地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見て･聞いて･体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1 科目 2 単位、CP 開講科目の「CP 概論および演習」「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」の 3 科目 6 単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「CP 関連科目」のうち 2 領域以上から 6 科目 12 単位以上を履修します。合計 20 単位以上を履修することで卒業時に宮城大学から『コミュニティ・プランナー アソシエイト』の称号が授与されます。

〈 CP プログラム科目構成 〉

CP 基盤科目（4 科目 8 単位）+ CP 関連科目（6 科目 12 単位）= 計 20 単位以上



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号 授与

<CP 概論および演習>
地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

<CP 実践論>
実践者・専門家の講義の講義やフィールドワークを通じ、事例把握による疑似体験により、CP としての知識・理解を深めます。

<CP フィールドワーク演習>
コミュニティ再生の実践的経験を通して、CP としての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

（3）プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能（サスティナブル）な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命（いのち）がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命（いのち）のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命（いのち）の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク（実践）」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO 等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、今コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

（4）履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への参入

各学群の履修登録単位数には上限があるので、各学群の履修規程を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

看護学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」のみ卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。

事業構想学群および食産業学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「CP 概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」は卒業要件単位には入りません（地域創成学類を除く）。

③CP 関連科目

CP 関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学の学生による他学群・他学類授業科目の履修等実施要綱」を確認してください。

※CP 関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表　CP関連科目（2領域以上、6科目12単位以上を修得）

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	行政学	3前	2	地域創生
	人間関係論	1後	2	看護	社会的共通資本	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅰ（看護学群の学生のみ履修可）	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅱ（全学群の学生履修可）	2前	2	看護	地域交流論	3後	2	地域創生
	災害活動論	1後	2	看護	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	臨床心理学	1後	2	看護	地方自治	3後	2	地域創生
	地域看護学概論	2後	2	看護	地域福祉政策	4前	2	地域創生
	地域政策概論	2前	2	地域創生	栄養科学	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	動物福祉論	3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生				計25科目
グリーンデザイン	地域社会・産業とデザイン	1後	2	地域創生 価値創造デザイン 事業プランニング	災害の科学（水）	3前	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域政策概論	2前	2	地域創生	災害の科学（土）	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	地域創生	地域交流論	3後	2	地域創生
	地域資源論	2後	2	地域創生	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	地域社会学	2後	2	地域創生	地方自治	3後	2	地域創生
	地域分析学	2後	2	地域創生	景観工学	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	地域創生	都市計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2後	2	地域創生 価値創造デザイン	交通計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	伝統と文化	2後	2	価値創造デザイン	地区・街区計画	4前	2	地域創生 価値創造デザイン
	行政学	3前	2	地域創生	地域環境政策	4前	2	地域創生
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	防災計画	4前	2	地域創生
	地理情報分析	3前	2	地域創生	環境科学	2後	2	食資源開発 フードマネジメント
	風土・伝統デザイン	3前	2	価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	水資源利用学	3前	2	地域創生 食資源開発	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	都市と文化	3前	2	地域創生 価値創造デザイン				計29科目
グリービジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	社会起業論	4前	2	地域創生
	地域活性化とビジネス	1後	2	地域創生	食料・農業・農村政策	3前	2	食資源開発 フードマネジメント
	地域政策概論	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	3前	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	畜産食品学	2･3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	食産業政策論	3後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生	食品経済・政策論演習	3後	2	フードマネジメント
	行政学	3前	2	地域創生	食材生産経営学	3後	2	フードマネジメント
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	食資源開発学	3後	2	食資源開発
	地理情報分析	3前	2	地域創生	食品マーケティング論	3後	2	食資源開発
	地域交流論	3後	2	地域創生	植物性食材生産実験実習Ⅱ	3後	2	食資源開発
	コミュニティ創造	3後	2	地域創生	付加価値動物性食材生産法	3後	2	食資源開発
	地方自治	3後	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域産業政策	4前	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
								計30科目

2 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内･海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。このうち、海外で行うものの一つとして「リアル・アジア」があります。

①リアル・アジアとは

宮城大学では、平成 24 年度、「就活ゼロ、就職 100%」を目指し、アジア経験を持つ学生を輩出していきたいと考え、ベトナムでの研修プログラム「リアル･アジア」を企画しました。本学学生のグローバル素養（異文化理解力･コミュニケーション能力･タフさ等）を高め、個々人の持つ新しい可能性を掘り起こし、これからの勉強や就職に向けた目標と自信を獲得してもらいます。

②学外研修（リアル・アジア）

学外研修（リアルアジア短期研修）では、訪問国に関する基礎知識を学んだ後、本学教職員同行の下で、約 2 週間にわたり博物館・美術館をはじめ、大学・企業（工場等）・行政機関・NPO/NGO、そして商店・市場・農村などを訪問し、さまざまな観点から訪問国の事例研究を進め､その国やそこに生活する人々への理解を深め､「リアル」なアジアを経験するとともに, グローバル素養を身に付けます。

③グローバルインターンシップ（リアル・アジア）

グローバルインターンシップでは、日本企業ベトナム現地法人、NGO 等で 2 ～ 4 週間のインターンシップをします。アジアで活躍する企業や機関での研修を通して、アジアと日本を捉えなおし、両者をつなぐ意義とその実際を学びます。これからの社会人として必要とされるグローバル素養（適応力・行動力・国際感覚・メンタルタフネス）を修得することが目的です。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター等から案内される募集手続きに従って応募します。詳細は国際交流・留学生センター等で配布する募集要項を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

3 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として､授業料はかかりません（放送大学の授業料を除く｡実習費用等が別途かかる場合があります）｡履修できる授業科目（シラバス）や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイト（http://www.gakuto-sendai.jp/for_s/index.html）を確認してください。

(2) 単位互換制度の申請方法

①受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認	→	履修申請（出願）	→	履修許可・受講開始	→	成績連絡	→	卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月（大学により4月）		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目･募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始		ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務部あてに提出		宮城大学事務部から履修の案内を受け取りしだい､授業の受講開始		宮城大学事務部より成績連絡		既修得単位認定の申請を宮城大学事務部に提出

②出願資格

宮城大学に在籍する正規学生で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「○年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③出願期間

出願期間は、前期科目及び通年科目は4月中旬、後期科目は9月中旬で、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締め切りの1週間前までに、宮城大学事務部へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生（特別聴講学生）願書」（共通様式または各校指定様式）に必要事項を記入して、宮城大学事務部へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受講が決定したら宮城大学事務部よりお知らせしますので、相手先の大学で授業を履修することが出来ます。

⑥成績連絡

履修した授業の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、掲示やメールでお知らせしますので、宮城大学事務部窓口で受け取ってください。

⑦単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。[詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、学内ウェブサイトで確認して下さい。]

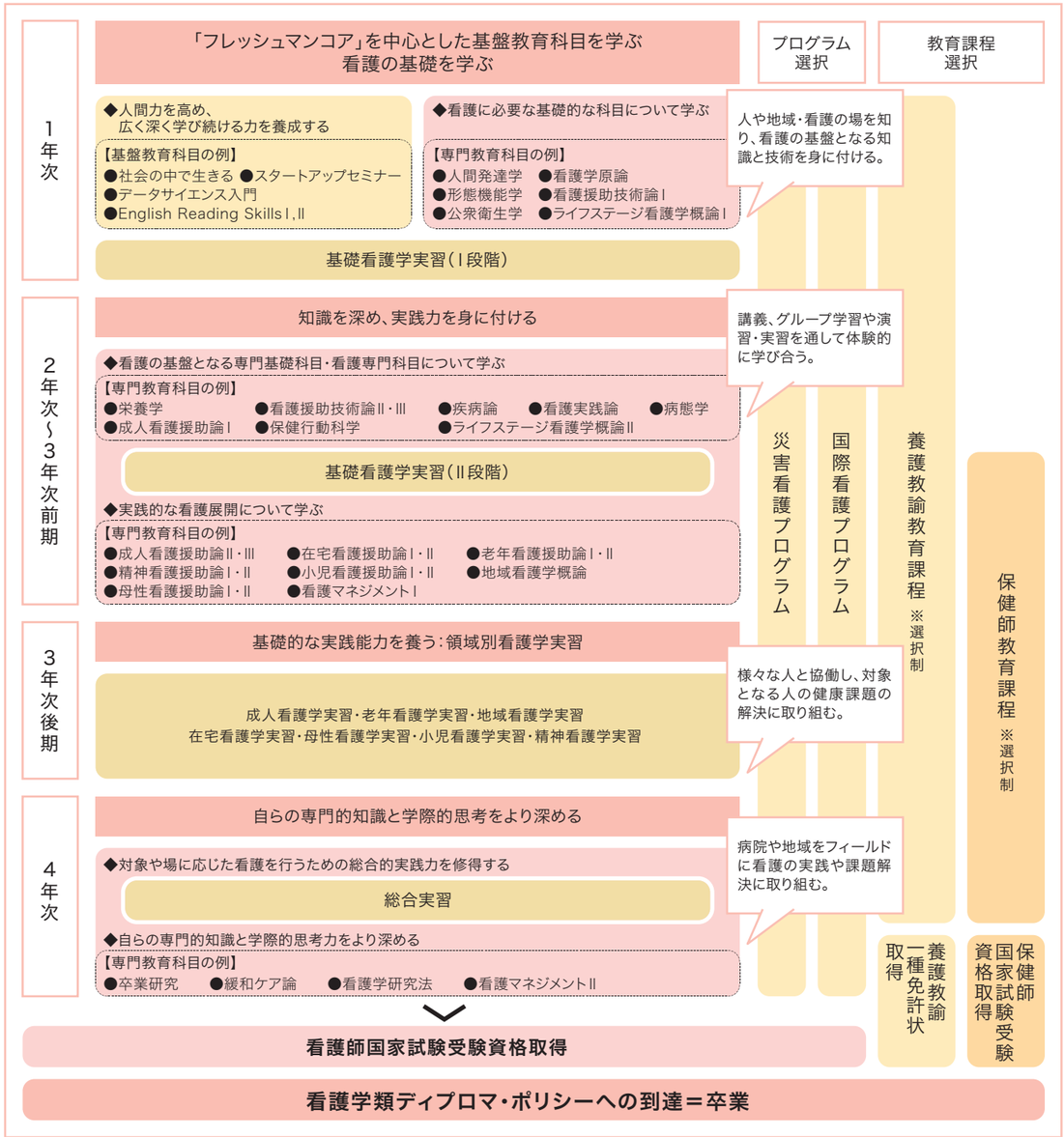
Ⅵ. 看護学群

1 ―看護学群看護学類について

(1) カリキュラムの特徴

看護学類では、1 年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目と、看護の基礎となる専門教育科目を学びます。2 年次から 3 年次にかけて、講義やグループ学習、演習・実習により、専門教育科目の知識を深め、実践力を身に付けます。3 年次後期には、領域別看護学実習で看護の実践能力を養います。4 年次には、病院や地域をフィールドに総合実習や卒業研究に取り組み、自らの専門的知識と学際的思考をより深めます。さらに学びを深めるため、災害看護プログラムや国際看護プログラムなど目的に沿って選択します。また、保健師教育課程、養護教諭教育課程を選択し、将来目指すべき看護職像に向けて学修します。

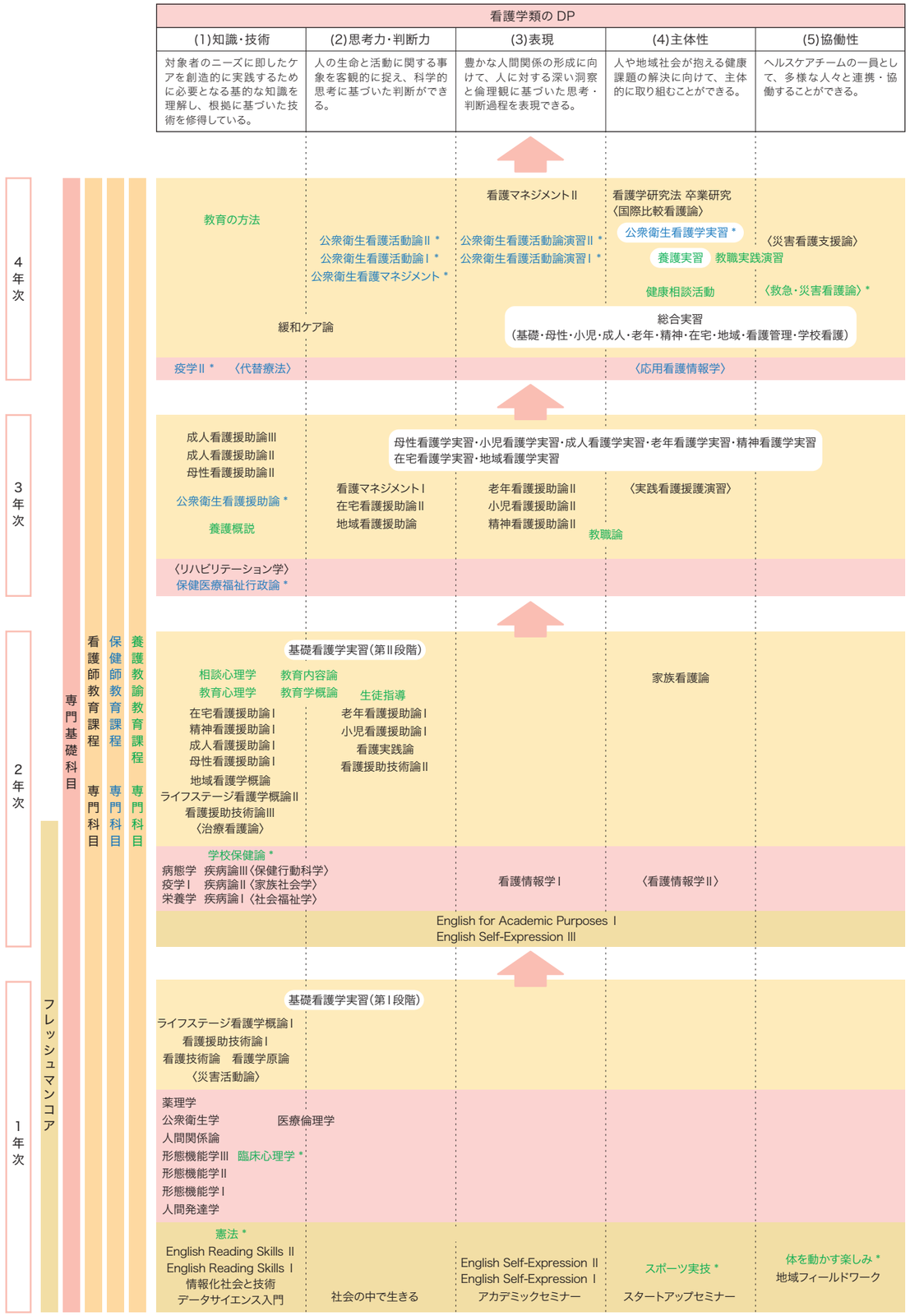
看護学類での4年間の学び



（2）看護学群の教育目標

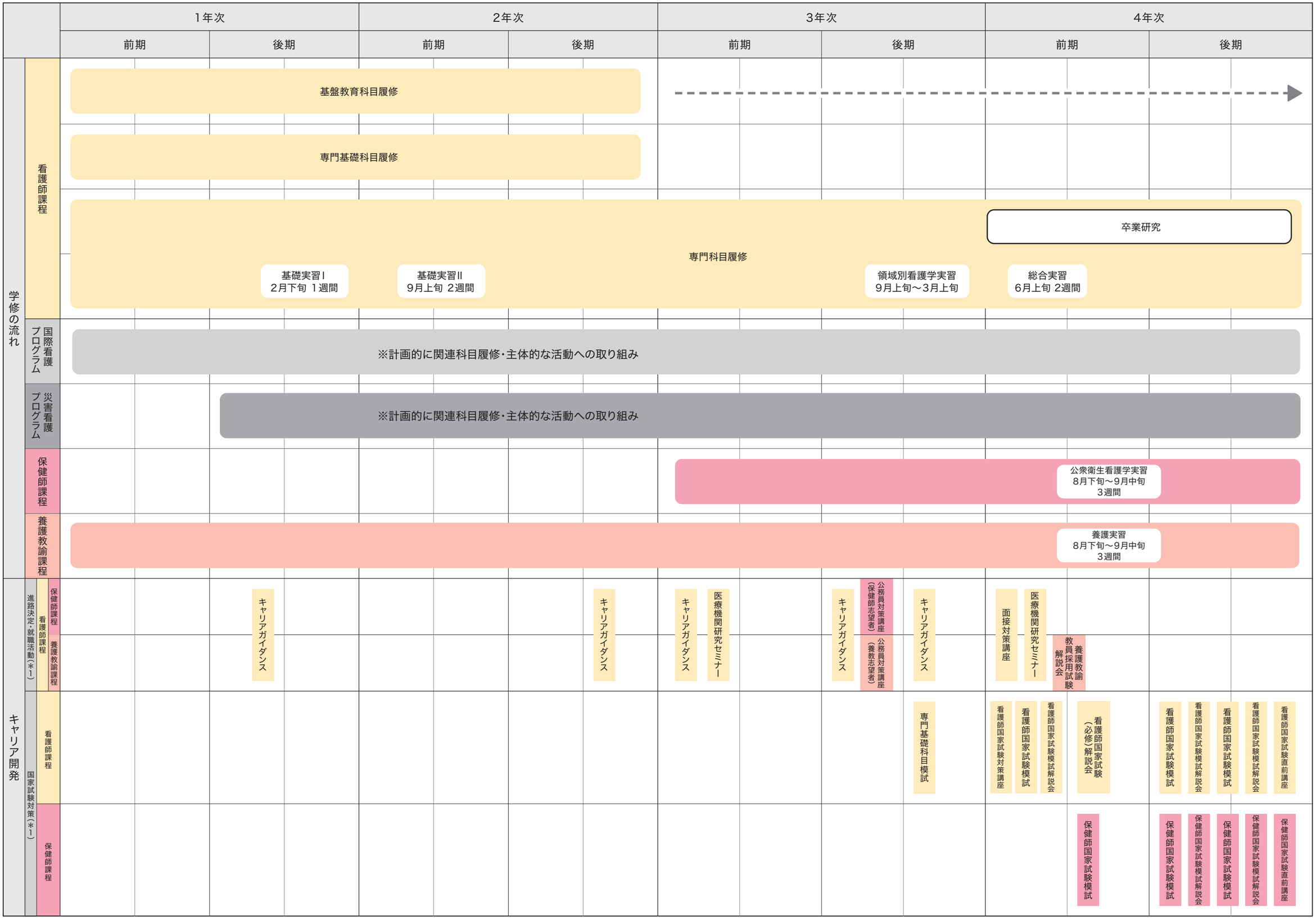
	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士（看護学）の学位を授与する。	看護学群看護学類では、「基盤教育科目」と並行して、看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と看護学の専門性を深め、拡げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を拡げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。
1 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	基盤教育科目での学修に基づき、看護学の基盤となる関連科学や看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。 専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。
2 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づいた判断ができる。	講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を科学的思考過程を経て明確化し、課題解決につなげる教育を行う。 専門基礎科目として、医療における倫理的思考、情報の収集や分析、伝達等に関係する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。 専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。
3 表現	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を実践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。 専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を実践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。
4 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。
5 協働性	ヘルスケアチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的な態度を養う教育を行う。 専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。

（3）看護学群のカリキュラムマップ



** … 保健師または養護教諭課程の必修および看護師教育課程の選択科目　〈〉…看護師教育課程の選択科目

（4）看護学群の4年間の学びの流れ



＊1：その年によって、変更になる場合もあります。

2 看護学群の科目配当

（1）看護師教育課程科目配当表

【凡例】
◎：必修科目　★：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目　国★：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目
FC：フレッシュマンコア　GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期 履修	1年次 前期 科目名	1年次 前期 単位	1年次 後期 履修	1年次 後期 科目名	1年次 後期 単位	2年次 前期 履修	2年次 前期 科目名	2年次 前期 単位	2年次 後期 履修	2年次 後期 科目名	2年次 後期 単位	3年次 前期 履修	3年次 前期 科目名	3年次 前期 単位	3年次 後期 履修	3年次 後期 科目名	3年次 後期 単位	4年次 前期 履修	4年次 前期 科目名	4年次 前期 単位	4年次 後期 履修	4年次 後期 科目名	4年次 後期 単位	卒業要件
基盤教育科目	FC	必修	◎	社会の中で生きる	1																					
			◎	スタートアップ・セミナー	2	◎	アカデミック・セミナー	2																		
			◎	地域フィールドワーク	2																					
			◎	データサイエンス入門	2	◎	情報化社会と技術	2																		
			◎国	English Reading Skills Ⅰ	1	◎国	English Reading Skills Ⅱ	1	◎国	English for Academic Purposes Ⅰ	1															
			◎国	English Self-Expression Ⅰ	1	◎国	English Self-Expression Ⅱ	1	◎国	Engish Self-Expression Ⅲ	1															
	GC	選択	国	Intercultural Communication	2							国	English for Academic Purposes Ⅱ	1												
				Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1												
				中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1																		
				韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1																		
				ベトナム語Ⅰ	1		ベトナム語Ⅱ	1																		
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2																		
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2																		
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2																		
				心理学	2		憲法	2																		
							社会と経済	2																		
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2																		
				生命科学	2		地球と宇宙	2																		
				数学概論	2		基礎統計学	2																		
				物理概論	2																					
			★	化学概論	2																					
			★	生物概論	2																					
	AS			音楽	2		美術	2																		
				健康科学	2																					
				スポーツ科学	1																					
				スポーツ実技	1		体を動かす楽しみ	1																		
	留学生			日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1												
				日本事情Ⅰ	2		日本事情Ⅱ	2																		
全学共通科目										コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2								
									国★	グローバルインターンシップ	2	国★	学外研修	2												
専門教育科目	専門基礎科目	必修	◎	人間発達学	2	◎	人間関係論	2	◎	病態学	2	◎	栄養学	2												
			◎	医療倫理学	2	◎	形態機能学Ⅱ	1	◎	疾病論Ⅰ	1	◎	疫学Ⅰ	2												
			◎	形態機能学Ⅰ	1	◎	形態機能学Ⅲ	1	◎	疾病論Ⅱ	1	◎	疾病論Ⅲ	1												
						◎	薬理学	2	◎	看護情報学Ⅰ	1															
						◎	公衆衛生学	2																		
		選択					臨床心理学	2		保健行動科学	2															
										家族社会学	2		学校保健論	2												
										社会福祉学	2					保健医療福祉行政論	2							疫学Ⅱ	2
													看護情報学Ⅱ	1								応用看護情報学	1			
																リハビリテーション学	2							代替療法	2
	専門科目	必修	◎	看護学原論	2	◎	ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	◎	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	◎	看護実践論	2	◎	母性看護援助論Ⅱ	2	◎	母性看護学実習	2	◎	看護学研究法	2			
						◎	看護技術論	2	◎	看護援助技術論Ⅱ	1	◎	地域看護学概論	2	◎	小児看護援助論Ⅱ	2	◎	小児看護学実習	2	◎	看護マネジメントⅡ	2			
						◎	看護援助技術論Ⅰ	1	◎	看護援助技術論Ⅲ	1	◎	家族看護論	2	◎	成人看護援助論Ⅱ	2	◎	成人看護学実習	6	◎	緩和ケア論	2			
									◎	成人看護援助論Ⅰ	2	◎	母性看護援助論Ⅰ	2	◎	成人看護援助論Ⅲ	2	◎	老年看護学実習	3	◎	総合実習	2			
									◎	老年看護援助論Ⅰ	2	◎	小児看護援助論Ⅰ	2	◎	老年看護援助論Ⅱ	2	◎	精神看護学実習	2	◎	卒業研究	2			
						◎	基礎看護学実習	3	◎	精神看護援助論Ⅰ	2	◎	精神看護援助論Ⅱ	2	◎	在宅看護学実習	1									
									◎	在宅看護援助論Ⅰ	2	◎	地域看護援助論	2	◎	地域看護学実習	2									
												◎災	看護マネジメントⅠ	2												
												◎	在宅看護援助論Ⅱ	2												
		選択				災	災害活動論	2													災	救急・災害看護論	2	災	災害看護支援論	2
															国	実践看護英語演習	1				国	国際比較看護論	2			
													治療看護論	2												
																公衆衛生看護援助論	2					公衆衛生看護活動論Ⅰ	2		公衆衛生看護マネジメント	2
																						公衆衛生看護活動論Ⅱ	2			
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1			
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1			
養護教諭教育課程（卒業要件外）										教育学概論	2		教育内容論	2		教職論	2					教育の方法	2			
										教育心理学	2		相談心理学	2		養護概説	2					健康相談活動	2			
										生徒指導	2															
履修条件	必修単位数		基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位						基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位						専門：36単位					専門：10単位						118単位
	選択必修単位数		基盤教育科目：8単位																							8単位以上
	履修単位数の上限		49単位（基盤教育科目35単位）						49単位						49単位					49単位						必要単位数：126単位以上

留学生は2単位以上選択必修

各自の学修目的・目標に合わせて履修

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

深めたい専門知識・技術に合わせて履修

卒業要件：
- 17単位 必修
- 指定なし
- 2単位以上履修
- 4単位以上履修
- 2単位以上履修
- 留学生のみ履修可能
- 全学共通科目は卒業要件単位に含まない
- 必修科目を含めて23単位以上履修
- 必修科目を含めて78単位以上履修
- 必修を含めて25単位以上履修
- 必修を含めて126単位以上履修

2 看護学群の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

【凡例】
◎：必修科目　◎保：保健師教育課程必修科目　★：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目
国★：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目　FC：フレッシュマンコア
GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期 履修	1年次 前期 科目名	1年次 前期 単位	1年次 後期 履修	1年次 後期 科目名	1年次 後期 単位	2年次 前期 履修	2年次 前期 科目名	2年次 前期 単位	2年次 後期 履修	2年次 後期 科目名	2年次 後期 単位	3年次 前期 履修	3年次 前期 科目名	3年次 前期 単位	3年次 後期 履修	3年次 後期 科目名	3年次 後期 単位	4年次 前期 履修	4年次 前期 科目名	4年次 前期 単位	4年次 後期 履修	4年次 後期 科目名	4年次 後期 単位	卒業要件		
基盤教育科目	FC	必修	◎	社会の中で生きる	1																						17単位 必修	必修を含めて25単位以上履修	必修を含めて126単位以上履修
			◎	スタートアップ・セミナー	2	◎	アカデミック・セミナー	2																				
			◎	地域フィールドワーク	2																							
			◎	データサイエンス入門	2	◎	情報化社会と技術	2																				
			◎国	English Reading Skills Ⅰ	1	◎国	English Reading Skills Ⅱ	1	◎国	English for Academic Purposes Ⅰ	1																	
			◎国	English Self-Expression Ⅰ	1	◎国	English Self-Expression Ⅱ	1	◎国	Engish Self-Expression Ⅲ	1																	
	GC	選択	国	Intercultural Communication	2								English for Academic Purposes Ⅱ	1													指定なし	
				Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1														
				中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1																				
				韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1																				
				ベトナム語Ⅰ	1		ベトナム語Ⅱ	1																				
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2																			2単位以上履修	
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2																				
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2																				
				心理学	2		憲法	2																				
							社会と経済	2																				
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2																			4単位以上履修	
				生命科学	2		地球と宇宙	2																				
				数学概論	2		基礎統計学	2																				
				物理概論	2																							
			★	化学概論	2																							
			★	生物概論	2																							
	AS			音楽	2		美術	2																			2単位以上履修	
				健康科学	2																							
				スポーツ科学	1																							
				スポーツ実技	1		体を動かす楽しみ	1																				
	留学生			日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1													留学生のみ履修可能	
				日本事情Ⅰ	2		日本事情Ⅱ	2																				
全学共通科目										コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2									全学共通科目は卒業要件単位に含まない	
									国★	グローバルインターンシップ	2	国★	学外研修	2													
専門教育科目	専門基礎科目	必修	◎	人間発達学	2	◎	人間関係論	2	◎	病態学	2	◎	栄養学	2													必修科目を含めて23単位以上履修	
			◎	医療倫理学	2	◎	形態機能学Ⅱ	1	◎	疾病論Ⅰ	1	◎	疫学Ⅰ	2														
			◎	形態機能学Ⅰ	1	◎	形態機能学Ⅲ	1	◎	疾病論Ⅱ	1	◎	疾病論Ⅲ	1														
						◎	薬理学	2	◎	看護情報学Ⅰ	1																
						◎	公衆衛生学	2																			
		選択必修													◎保	保健医療福祉行政論	2								◎保	疫学Ⅱ	2	
		選択					臨床心理学	2		保健行動科学	2																
										家族社会学	2		学校保健論	2														
										社会福祉学	2																
													看護情報学Ⅱ	1									応用看護情報学	1				
																リハビリテーション学	2									代替療法	2
	専門科目	必修	◎	看護学原論	2	◎	ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	◎	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	◎	看護実践論	2	◎	母性看護援助論Ⅱ	2	◎	母性看護学実習	2	◎	看護学研究法	2				必修科目を含めて78単位以上履修	
						◎	看護技術論	2	◎	看護援助技術論Ⅱ	1	◎	地域看護学概論	2	◎	小児看護援助論Ⅱ	2	◎	小児看護学実習	2	◎	看護マネジメントⅡ	2				
						◎	看護援助技術論Ⅰ	1	◎	看護援助技術論Ⅲ	1	◎	家族看護論	2	◎	成人看護援助論Ⅱ	2	◎	成人看護学実習	6	◎	緩和ケア論	2				
									◎	成人看護援助論Ⅰ	2	◎	母性看護援助論Ⅰ	2	◎	成人看護援助論Ⅲ	2	◎	老年看護学実習	3	◎	総合実習	2				
									◎	老年看護援助論Ⅰ	2	◎	小児看護援助論Ⅰ	2	◎	老年看護援助論Ⅱ	2	◎	精神看護学実習	2	◎	卒業研究	2				
						◎	基礎看護学実習	3				◎	精神看護援助論Ⅰ	2	◎	精神看護援助論Ⅱ	2	◎	在宅看護学実習	1								
												◎	在宅看護援助論Ⅰ	2	◎	地域看護援助論	2	◎保	地域看護学実習	2								
															◎災	看護マネジメントⅠ	2											
															◎	在宅看護援助論Ⅱ	2											
		選択必修													◎保	公衆衛生看護援助論	2				◎保	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	◎保	公衆衛生看護マネジメント	2		
																					◎保	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	◎保	災害看護支援	3		
																					◎保	公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1					
																					◎保	公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1					
		選択				災	災害活動論	2													災	救急・災害看護論	2	災	災害看護支援論	2		
															国	実践看護英語演習	1				国	国際比較看護論	2					
													治療看護論	2														
養護教諭教育課程（卒業要件外）										教育学概論	2		教育内容論	2		教職論	2					教育の方法	2				
										教育心理学	2		相談心理学	2		養護概説	2					健康相談活動	2					
										生徒指導	2																	
履修条件	必修単位数		基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位						基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位						専門：36単位						専門：10単位						118単位		
	選択必修単位数		基盤教育科目：8単位																								8単位以上		
															専門基礎：2単位 専門：2単位						専門基礎：2単位 専門：11単位						17単位		
	履修単位数の上限		49単位（基盤教育科目35単位）						49単位						49単位						49単位						必要単位数：143単位以上		

留学生は2単位以上選択必修

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

各自の学修目的・目標に合わせて履修

深めたい専門知識・技術に合わせて履修

2 看護学群の科目配当

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

【凡例】
◎：必修科目　◎養：養護教諭教育課程必修科目　★：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目
国★：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目　FC：フレッシュマンコア
GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期 履修	1年次 前期 科目名	1年次 前期 単位	1年次 後期 履修	1年次 後期 科目名	1年次 後期 単位	2年次 前期 履修	2年次 前期 科目名	2年次 前期 単位	2年次 後期 履修	2年次 後期 科目名	2年次 後期 単位	3年次 前期 履修	3年次 前期 科目名	3年次 前期 単位	3年次 後期 履修	3年次 後期 科目名	3年次 後期 単位	4年次 前期 履修	4年次 前期 科目名	4年次 前期 単位	4年次 後期 履修	4年次 後期 科目名	4年次 後期 単位	卒業要件		
基盤教育科目	FC	必修	◎	社会の中で生きる	1																						17単位必修	必修を含めて25単位以上履修	必修を含めて126単位以上履修
			◎	スタートアップ・セミナー	2	◎	アカデミック・セミナー	2																				
			◎	地域フィールドワーク	2																							
			◎	データサイエンス入門	2	◎養	情報化社会と技術	2																				
			◎養国	English Reading Skills Ⅰ	1	◎養国	English Reading Skills Ⅱ	1	◎養国	English for Academic Purposes Ⅰ	1																	
			◎養国	English Self-Expression Ⅰ	1	◎養国	English Self-Expression Ⅱ	1	◎養国	Engish Self-Expression Ⅲ	1																	
	GC	選択	国	Intercultural Communication	2													国	English for Academic Purposes Ⅱ	1							指定なし		
				Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1														
				中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1																				
				韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1																				
				ベトナム語Ⅰ	1		ベトナム語Ⅱ	1																				
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2																			2単位以上履修	
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2																				
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2																				
				心理学	2	◎養	憲法	2																				
							社会と経済	2																				
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2																			4単位以上履修	
				生命科学	2		地球と宇宙	2																				
				数学概論	2		基礎統計学	2																				
				物理概論	2																							
			★	化学概論	2																							
			★	生物概論	2																							
	AS			音楽	2		美術	2																			2単位以上履修	
				健康科学	2																							
				スポーツ科学	1																							
			◎養	スポーツ実技	1	◎養	体を動かす楽しみ	1																				
	留学生			日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1													留学生のみ履修可能	
				日本事情Ⅰ	2		日本事情Ⅱ	2																				
全学共通科目										コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2									全学共通科目は卒業要件単位に含まない		
									国★	グローバルインターンシップ	2	国★	学外研修	2													
専門教育科目	専門基礎科目	必修	◎	人間発達学	2	◎	人間関係論	2	◎養	病態学	2	◎養	栄養学	2													必修科目を含めて23単位以上履修		
			◎	医療倫理学	2	◎養	形態機能学Ⅱ	1	◎養	疾病論Ⅰ	1	◎養	疫学Ⅰ	2														
			◎養	形態機能学Ⅰ	1	◎養	形態機能学Ⅲ	1	◎養	疾病論Ⅱ	1	◎	疾病論Ⅲ	1														
						◎養	薬理学	2	◎	看護情報学Ⅰ	1																	
						◎養	公衆衛生学	2																				
		選択必修				◎養	臨床心理学	2				◎養	学校保健論	2														
		選択								保健行動科学	2																	
										家族社会学	2																	
										社会福祉学	2					保健医療福祉行政論	2								疫学Ⅱ	2		
													看護情報学Ⅱ	1								応用看護情報学	1					
																リハビリテーション学	2								代替療法	2		
	専門科目	必修	◎養	看護学原論	2	◎養	ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	◎養	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	◎養	看護実践論	2	◎	母性看護援助論Ⅱ	2	◎	母性看護学実習	2	◎	看護学研究法	2				必修科目を含めて78単位以上履修		
						◎養	看護技術論	2	◎	看護援助技術論Ⅱ	1	◎養	地域看護学概論	2	◎養	小児看護援助論Ⅱ	2	◎養	小児看護学実習	2	◎	看護マネジメントⅡ	2						
						◎	看護援助技術論Ⅰ	1	◎	看護援助技術論Ⅲ	1	◎養	家族看護論	2	◎	成人看護援助論Ⅱ	2	◎	成人看護学実習	6	◎	緩和ケア論	2						
									◎	成人看護援助論Ⅰ	2	◎	母性看護援助論Ⅰ	2	◎	成人看護援助論Ⅲ	2	◎	老年看護学実習	3	◎	総合実習	2						
									◎	老年看護援助論Ⅰ	2	◎養	小児看護援助論Ⅰ	2	◎	老年看護援助論Ⅱ	2	◎	精神看護学実習	2	◎	卒業研究	2						
						◎養	基礎看護学実習	3	◎養	精神看護援助論Ⅰ	2	◎	精神看護援助論Ⅱ	2	◎	在宅看護学実習	1											
									◎	在宅看護援助論Ⅰ	2	◎	地域看護援助論	2	◎	地域看護学実習	2												
												◎	看護マネジメントⅠ	2														
												◎	在宅看護援助論Ⅱ	2														
		選択必修																			◎養災	救急・災害看護論	2					
		選択				災	災害活動論	2																	災	災害看護支援論	2		
															国	実践看護英語演習	1				国	国際比較看護論	2				
													治療看護論	2														
																公衆衛生看護援助論	2					公衆衛生看護活動論Ⅰ	2		公衆衛生看護マネジメント	2		
																						公衆衛生看護活動論Ⅱ	2					
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1					
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1					
養護教諭教育課程（卒業要件外）									◎養	教育学概論	2	◎養	教育内容論	2	◎養	教職論	2				◎養	教育の方法	2	◎養	養護実習	5	25単位（卒業要件外）		
									◎養	教育心理学	2	◎養	相談心理学	2	◎養	養護概説	2				◎養	健康相談活動	2	◎養	教職実践演習（養護教諭）	2			
									◎養	生徒指導	2																	
履修条件	必修単位数		基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位						基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位 卒業要件外：10単位						専門：36単位 卒業要件外：4単位						専門：10単位 卒業要件外：11単位						143単位		
	選択必修単位数		基盤教育科目：8単位（「憲法」・「スポーツ実技」 「からだを動かす楽しみ」含む）																								8単位以上		
			専門基礎：2単位						専門基礎：2単位												専門：2単位						6単位		
	履修単位数の上限		49単位（基盤教育科目35単位）						49単位						49単位						49単位						必要単位数：157単位以上		

留学生は2単位以上選択必修

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

各自の学修目的・目標に合わせて履修

深めたい専門知識・技術に合わせて履修

3 卒業に必要な単位数及び卒業要件

卒業するためには、４年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区分		単位
基盤教育科目	フレッシュマンコア	25
	グローバルコミュニケーション	
	ソーシャルサイエンス	
	ナチュラルサイエンス	
	アートサイエンス	
	留学生対象	
専門教育科目	専門基礎科目	23
	専門科目	78
計		126

4 教育課程の特色

看護学類では、全員対象の看護師教育課程と希望により選択する保健師教育課程、養護教諭教育課程の 3 つの教育課程があります。1 年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目と、看護の基礎となる専門教育科目を学びます。1 年次から将来目指す看護職像を見据えて、必修科目の他、各教育課程に必要な科目を選択し、学修します。2 年次から 3 年次にかけては、講義やグループ学習、演習・実習により、専門教育科目の知識を深め、実践力を身に付けます。3 年次後期には、領域別看護学実習で看護の実践能力を養います。4 年次には、病院や地域をフィールドに総合実習や卒業研究、また、選択により保健師教育課程・養護教諭教育課程のそれぞれの実習に取り組み、自らの専門的知識と学際的思考をより深めます。看護の専門的な学びを深めるプログラムとして、災害看護プログラムと国際看護プログラムを設置し、学生の主体的な学びを通して、さまざまな場で活躍できる看護職の育成を目指しています。

(1) 基盤教育科目

詳細は履修登録ガイドⅣ基盤教育の章を確認してください。

(2) 専門教育科目

①専門基礎科目〔２３単位必修〕

専門基礎科目は、看護学の近接領域や基礎段階で履修する科目群です。
健康についての多角的な理解と、看護学の理解のために必要な関連科学の知識を養うものです。

②専門科目〔７８単位必修〕

看護学の基本または柱となる科目群で、基盤看護学、成熟期看護学、次世代育成看護学、広域看護学の 4 分野から構成されています。看護学の理論的理解と実践面に関する看護技術、ライフステージ看護学概論および領域ごとの看護援助論等を配置し、看護学の基礎的知識と技術を修得するものです。さらに、看護の基本的知識を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

※「災害看護プログラム」について

災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える人材の育成をねらいとしたプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

学年	学期	災害看護プログラム構成科目	
1年生	後期	災害活動論（選択）	
3年生	前期	看護マネジメントⅠ（必修）	
4年生	前期	救急・災害看護論（選択）	（卒業研究（必修））
	後期	災害看護支援論（選択）	

※「国際看護プログラム」について

国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護実践及び関係者と協働できるための基盤となる基礎的能力の修得を支援するプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

学年	学期	国際看護プログラム構成科目	
1年生	前期	English Reading Skills Ⅰ(必修)、English Self-Expression Ⅰ(必修)	
	後期	English Reading Skills Ⅱ(必修)、English Self-Expression Ⅱ(必修)	
2年生	前期	English for Academic Purposes Ⅰ(必修)、English Self-Expression Ⅲ(必修) Intercultural Communication(選択)(1・2年前期)	
	後期	English for Academic Purposes Ⅱ(選択)	
3年生	前期	実践看護英語演習(選択)	
4年生	前期	国際比較看護論(選択)	（卒業研究(必修)）
	後期		

5 看護師教育課程

所定の単位を修得し看護師教育課程を修了すると看護師国家試験受験資格を取得することができます。教育課程の特徴、各年次における履修科目は、カリキュラムマップと科目年次配当表を参照してください。

看護学群では、大学卒業時の到達状況の自己評価として「学びの振り返り」を実施しています。「学びの振り返り」は冊子体で、大学卒業時の到達目標を把握すること、自ら実際に評価して自分の学びを振り返ること、自分の到達状況と課題を認識することを目的に、実習後や各学年終了時に到達度を自己評価するとともに今後の課題を認識するために利用します。

看護学群でのキャリア開発として、1 年次からのキャリアガイダンスを通し、学生自身がどのような将来を設定し、その目標に向かってどのように取り組み進めていけばよいのか、先輩や様々な看護職の方々と出会う中で学び、充実した学生生活を送れるように支援しています。また、模擬試験や解説会、特別講座等を開催し国家試験に向けた取り組みも行っています。

6 保健師教育課程

(1) 保健師国家試験受験資格について

所定の単位を修得し保健師教育課程を修了すると、「保健師国家試験受験資格」を取得することができます。「保健師国家試験受験資格」の取得に当たっては、看護学群の必修科目のほか、学群履修規程の別表 1 の「卒業要件」の欄に「保健師国家試験受験に必修」と示してある授業科目について、すべて履修し、単位を修得する必要があるので、履修漏れのないよう十分注意してください。

なお、各年次における履修科目は、「保健師教育課程科目配当表」を参照してください。「保健師国家試験受験資格」と「養護教諭一種免許状」の両方を取得することはできません。

(2) 選択科目の履修・単位修得について

「保健師国家試験受験資格」を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

①専門基礎科目
- 保健医療福祉行政論（3年前期開講　2単位）
- 疫学Ⅱ（4年後期開講　2単位）

②専門科目
- 公衆衛生看護援助論（3年前期開講　2単位）
- 公衆衛生看護活動論Ⅰ（4年前期開講　2単位）
- 公衆衛生看護活動論Ⅱ（4年前期開講　2単位）
- 公衆衛生看護活動論演習Ⅰ（4年前期開講　1単位）
- 公衆衛生看護活動論演習Ⅱ（4年前期開講　1単位）
- 公衆衛生看護マネジメント（4年後期開講　2単位）
- 公衆衛生看護学実習（4年後期開講　3単位）

(3)「公衆衛生看護学実習」について

「公衆衛生看護学実習」は、4 年次の 8 月末から 9 月末にかけて 3 週間行います。履修については、保健師国家試験受験資格を取得しようとする動機や成績等、一定の条件を必要とし、3 年次の前期に希望を調査し、4 年次までに履修者を選抜します。選抜に当たっては、3 年次に開講している上記科目の単位修得をしている学生が対象となります。

保健師教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

7 養護教諭教育課程

(1) 養護教諭一種免許状の取得について

所定の単位を修得し、養護教諭教育課程を修了すると、教育職員免許法に基づく「養護教諭一種免許状」を取得することができます。免許状の取得に当たっては、学群履修規程の別表 7「養護教諭一種免許状に係る授業科目」に掲げるすべての授業科目を履修し、単位を修得してください。

修得しなければならない単位の授業科目は、看護学群の必修科目のほか、「基盤教育科目」「専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）」における選択科目も含まれています。また、「教職に関する科目」については全科目の単位修得が必要になります。それぞれ履修漏れのないよう十分注意してください。

各年次における履修科目は、「養護教諭教育課程科目配当表」を参照してください。

なお、専修学校からの編入生は、養護教諭一種免許状の取得はできません。

(2) 選択科目の履修・単位修得について

養護教諭一種免許状を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

①基盤教育科目
- スポーツ実技（1･2 年開講　1 単位）
- 体を動かす楽しみ（1･2 年開講　1 単位）
- 憲法（1･2 年開講　2 単位）

※時間割の関係上、上記 2 科目を 2 年次以降に履修することができない場合があるので、必ず 1 年次に履修し、単位を修得してください。

②専門基礎科目
- 臨床心理学（1 年後期開講　2 単位）
- 学校保健論（2 年後期開講　2 単位）

③専門科目
- 救急・災害看護論（4 年前期開講　2 単位）

④教職に関する科目等
- 教育学概論　（2 年前期開講　2 単位）
- 教育心理学（2 年前期開講　2 単位）
- 生徒指導　（2 年前期開講　2 単位）
- 教育内容論（2 年後期開講　2 単位）
- 相談心理学　（2 年後期開講　2 単位）
- 教職論　（3 年前期開講　2 単位）
- 養護概説　（3 年前期開講　2 単位）
- 教育の方法（4 年前期開講　2 単位）
- 健康相談活動（4 年前期開講　2 単位）
- 養護実習　（4 年後期開講　5 単位）
- 教職実践演習〈養護教諭〉（4 年後期開講　2 単位）

(3) 養護実習・教職実践演習について

「養護実習」は、4 年次の 8 月末から 9 月末にかけて 3 週間、学校での実習を行います。さらに、その実習をふまえて、4 年次後期科目「教職実践演習」では、養護教諭教育課程の学びの最終的なまとめを行っていきます。「養護実習」の履修については、3 年次の前期に希望を調査します。

養護教諭教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

8 履修での留意事項等

履修に当たっては、次の事項にも注意してください。

①基盤教育科目は、複数年次開講していますが、時間割によっては希望する年次に履修できない場合があります。時間割上、基盤教育科目と必修科目が同一時限で重複する場合は、必修科目の履修が優先されるので、慎重に選択してください。

②専門教育科目は、開講年次（履修する学年）が定められています。定められた開講年次（履修学年）以外での履修は、原則としてできません。

③時間割上、授業科目は同一時限で複数科目開講されていますが、履修できる科目は、原則として１時限１科目です。

④臨地実習の実施の時期は、次のとおりです。

- 基礎看護学実習（１年次２～３月、２年次８～９月）
- 領域別看護学実習（３年次９月～３月）
- 総合実習（４年次５月～６月）